

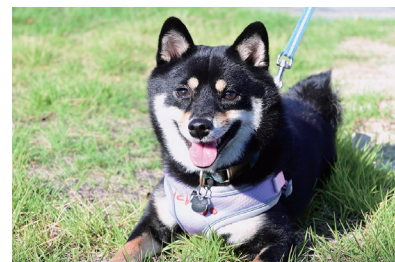


惣領3町内公民館で「お話の部屋“べんがら”」のライブを楽しんでいた皆さん



公民館に集まった人たちの輪に、民生委員の中でも一番若いという長谷川亜紀さんもいました

益田さんは、月に2回ほど広安小で児童たちに自ら選んだ本の物語や、地元の民話などを伝える活動も続けています。「楽しんでくださる皆さんから元気をいただいています。いつもどこそこ駆け回っているんで、知り合いから『家にいたためしがない』と言われます」とおちゃめな笑いました。



いつも公園に散歩にやってくる柴犬のいちごちゃん



上 / 惣領4町内の公園は、清掃が行き届いています。左上 / 公園内の草刈りをしていた谷口さん（左）と松本さん

朝の清掃

惣領交差点の一角に鎮座する惣領神社。裏手北側にある4町内の公園で、朝早くから草刈りに汗を流していたのは4町内区長の谷口茂泰さんと松本秀幸さんです。

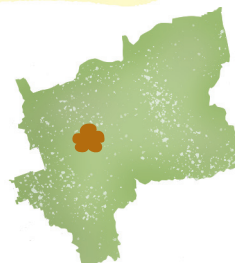
「毎朝公園で体操をした後、ゴミ拾いと草取りをします。以前に比べてゴミも少なくなり、マナーも守られています」と笑顔を見せる谷口さんは福岡県飯塚市出身で、45年前に移住してきました。

一方、惣領で生まれ育った松本さんは「辺りの景色は様変



vol.53

惣領編



すっかり秋です。春に先駆けて咲くウメや桜の葉も枯れ落ちて、季節が移るいゆくの感じます。

今回の散歩は惣領地区。1〜4町内に区分けされ、昔ながらの家々と新興住宅が交ざり合う地域をぶらりと歩いてみました。

引き込まれる語りの魅力

わりしたけど、神社は昔の面影が残る場所」と、幼い頃から親しんだ境内の掃除に余念がありません。

さて、公園に常連さん登場。いつも散歩にやって来る2歳の柴犬の鮫島いちごちゃんです。「おはよう」「今日もおこうだね」と谷口さんたちが声をかけるとうれしそうにしっぽを振りまわした。

「お話の部屋“べんがら”というチームを率い、読み聞かせのボランティア活動に取り組んでいるのが益田八重子さんです。

その日、惣領3町内で開かれたサロンでは、民話、紙芝居、朗読など大人も楽しめる出し物が用意されて



①帰省して児童館に遊びにやって来た家族。左から阿蘇幹さんと娘の紬希ちゃん、永木さん
②児童館の広くて清潔な施設内
③スタッフとして常駐する西梅しのぶさん（左）と福山佐代子さん



④施設をよく利用するという、広崎からやって来た鶴野郁さん⑤おもちゃの小さな家で遊ぶ鶴野さんの長女の友海ちゃんと次女の葵ちゃん

惣領3町内の保健福祉センター内にある益城町児童館。平成25年にオープンした同施設は、乳幼児から18歳までの児童は無料で遊ぶことができます。

広崎からやって来た鶴野郁さん家族の姿がありました。「玩具や遊具もそろって、安心して遊ばせることができます。ここでの友達も増えました」と話します。本土山から訪れた永木栄子さんは「娘や孫たちが帰省するとここに連れてきます」と、楽しそうに遊び始めました。

オープンから13年余り、利用者の世代にも変化が見られます。「当時、遊びに来ていた子どもさんがママになったお子さんを連れてきたり、保育士になった子もいてうれしくなります」とスタッフの福山佐代子さん。常駐するスタッフは教諭や保育士の資格を持つ人たちで、皆さんのかつての教え子たちも顔を出すそうです。



上 / ピーナツが出回る季節に高木さんがよく作るというピーナツおこわ
右 / 高木さんが手掛けた木目込みの花嫁人形



「木目込み人形に出合ってから、かれこれ18年です」という惣領3町内に暮らす、高木三代子さんに出会いました。

数多くの作品の中で心を奪われたのが、角隠しに白いうちかけをしつらえた愛らしい花嫁人形。独身時代は美容師だったという高木さんならではの感性が光ります。

結婚後、自衛官だった夫の守さんとの最初の赴任地が、日本に返還前の沖縄でした。「道路もルールもアメリカ式。現在のような観光地の雰囲気は全くなく、異国にいるように

愛らしい木目込み人形

いました。益田さんの演目は民話「へこきの番人」。居眠りしている番人のおならが、忍び込んだ泥棒に「誰だっ誰だっ」と聞こえるという愉快な物語。身振り手振り、登場人物の声色を変えての表現力豊かな益田さんの語りに引き込まれます。



身振り手振りで表現力豊かに民話を語る益田さん



「お話の部屋“べんがら”」の皆さん。左から松岡マチ子さん、吉永仁公さん、益田さん、猿本仁子さん、絵本セラピストの資格を持つ平野美保子さん